

第471回鉄鋼流通問題懇談会

2025年10月31日（金）14：30

茅場町「鉄鋼会館4階」日本鉄鋼連盟・第一会議室

議 題

1. 兼松トレーディング(株)退会について
2. 配布資料説明（全鉄連）
3. 全鉄連情勢報告
 - （1）地区の状況
 - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
 - 東京、大阪、東北、新潟、北陸、栃木地区概況報告
 - （2）総括：井上全鉄連会長
4. 意見交換
5. 持続可能なサプライチェーン構築・効率化のための鋼材物流ガイドラインの説明：（一社）日本鉄鋼連盟担当者
6. テーマ「トレーサビリティの取り組みについて」
7. 総括：赤木鉄流懇会長
8. 次回会議予定

2026年2月4日（水）14：30～

於：茅場町「鉄鋼会館804号室」

次回テーマ：「物流対応策と課題」

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	J F E 商事	日鉄物産
1. 需給動向（景況感）	（店売り分野）一般店売り分野は依然として荷動き低調、人手不足や資材高による慢性的な工期遅延、案件見直しにより中小案件が低迷。25 年度下期も復調はあまり期待出来ない状況。 そのような環境下、なんとか価格が維持されてきた高炉品種含め、足元値下げ要請の話が増えてきている。ステンレス管は昨年年末以降の市況下落が継続している。	2025 年 8 月末の薄板三品在庫は 406.1 万トンで前月比 15.5 万トン増加した。8 月は稼働日が少なく、メーカー、問屋、コイルセンター全てで在庫が積み上がり 2 カ月ぶりの 400 万トン台となった。今年は需要、流通ともに益休みが長く、稼働日減の影響が大きくなっている。また在庫を同月の生産量で割った 8 月の在庫率は 3.11 カ月となり、品種別在庫率では、熱延が 2.99 から 3.31 へ、冷延が 3.44 から 3.34 へ、溶融亜鉛メッキが 2.51 から 2.75 に変化した。輸入材の減少が影響し、冷延だけは在庫率が改善した。9 月末三品在庫の予想数量は、例年通りの減少量で推測すると、402 万トン程度であると思われる。荷動きについて、先安感が漂う中、各社当用買いに徹しており荷動きは重い状況であるが、10 月に入り底値感も感じられ始めており今後の動きに期待。	・全国厚板シャリング工業組合 25 年 8 月鋼板流通在庫 34.7 万 t（在庫率：3.0 カ月） 前年同月比▲9.6%、前月比▲0.6% ⇒店主主力分野の低調が続いており、入荷量・出荷量ともに低位横ばいの状況。長期休暇による稼働日減も影響。 建機：国内は建設需要停滞により苦戦。北米・欧州向けはインフラ投資継続により堅調。 産機：国内外ともに低調で推移、回復の期待が乏しい 建築：諸資材高騰や人手不足による計画見直し・工事遅れ継続。 橋梁：新橋の需要マクロが大きく減少し、大手橋梁 FAB も補修案件にシフトしつつある状況。	形鋼：2025 年 9 月度の H 形鋼のときわ会ベース全国出荷量は 62.8 千 t/月。前月比+7.3 千 t/月、前年同月比+4.0 千 t/月。建設需要は足元着工案件が低調でありファブリケーターの山積みも低位な状況。先々は首都圏再開発や大型物流施設の出件があり足元は低調ながらも改善傾向にある。然し乍ら、資材高、人手不足等による工期延長・工事縮小等の影響で、先行きの動向は不透明感が強い状況。 棒鋼：関東地区 9 月の明細受注量は 18 万 3,908 t と前月比+88% となり、8 月末から 9 月にかけて電研メーカー各社が値上げ発表を行った後、明細が集まった。安値が切りあがり徐々に市況も上がっている。為替の要因もあり、スクラップも値上がりしているが、足元は引合が少なく市況は様子見強含みとなっている。
2. 需要産業動向	（建築・土木） 2025 年 8 月の新設住宅着工戸数は、前年同月比▲9.8%の 6.0 万戸で、5 ヶ月連続の減少となった。民間非居住用建築物の着工延床面積は 234 万 m2 と前年同月比▲13.6%となった。前年同月と比較すると、事務所、倉庫は増加したが、店舗、工場が減少したため、全体で減少となった。 （自動車） 2025 年 8 月の国内生産台数は、前年同月比+0.9%、前月比▲27.5%の 51.8 万台。8 月の輸出は、前年同月比+1.2%、前月比▲17.6%の 28 万台。乗用車では、最大の輸出先である米国が前年同月比 0%減の 9 万台、カナダが同 38.4%増の 2 万台だった。カナダでは堅調な需要に加え、米国への「報復関税。回避のため、米国を介さず日本から輸出する対策が輸出台数を押し上げた可能性がある。 （建機） 2025 年 8 月の建設機械出荷金額は、内需 732 億円（前年同月比▲3.6%）、外需 1,761 億円（同+5.6%）、総合計は 2,492 億円（同+2.7%）と 2 ヶ月ぶりの増加。 （造船） 2025 年 8 月の起工量は 18 隻、85.8 万 G/T（前年同月比+55.7%）。	2025 年 9 月度車種別新車登録台数については、158,580 台で、先月比▲98.8%、小型乗用車については 70,930 台で同▲88.8%、バスについては 850 台で同▲96.5%であった。 2025 年 9 月度のルームエアコン国内出荷は 645 千台で、前年比+7.4%と 3 カ月ぶりのプラス、電気冷蔵庫は、317 千台で同+15.1%、電気洗濯機は 374 千台で同 11.2%となり、いずれも先月比を上回った。2025 年 9 月の戸建て注文住宅の受注速報値では、前年同月比で増加したハウスメーカーが 5 社あり、2 桁増を記録しました。一方で、7 社は減少しており、2025 年 4 月の建築基準法・省エネ法改正による駆け込み需要の反動で、2025 年 4 月以降の住宅着工戸数は急減しており、7 月から 9 月期の GDP を大きく押し下げる可能性が指摘されています。2025 年 7 月は前年同月比 9.7%減、8 月は 9.8%減となっており、反動減は落ち着きつつあるものの、減少傾向が続いています。	【造船】 ・輸出船受注実績 25 年 9 月 68 万総 t（前年同月比 2 倍） ・手持工事量 25 年 9 月末 2,927 万総 t（契約残 3.7 年） 手持ち工事量拡大で商社対発着納の中心が「29 年納期」移行。前年は新造船市場が堅調に推移し、国内造船では受注を伸ばしたことで、足元成約を急いでいる状況。 【建機】 ・建設機械出荷金額（本体合計） 25 年 8 月 2,181 億円（前年同月比+4.8%） 国内： 622 億（同▲4.1%）、輸出 1,559 億（同+8.8%） 国内は主力の油圧ショベル、トラクタ向け出荷が低調で減少。輸出は北米・欧州向けの電動建機の需要増が牽引。 【建築】 ・鉄骨需要量 25 年 8 月 26.5 万トン（前年同月比▲6.4%） 資材価格高騰、人手不足、24 年問題（労働時間規制など）を背景に工期見直しが相次ぎ建築着工が減少。足元回復の兆しは乏しく、25 年度鉄骨需要量は 360 万トンを超える見通し。 【産機】 ・鍛圧機械受注実績 25 年 9 月 365.3 億円（前年同月比+0.8%） 中国経済の減速、財政赤字の長期化、米国の関税政策（トランプ関税）などが影響し、輸出は低迷が続く。プレス系は EV 関連設備投資の伸び込みで受注が減少。サービス系は国内外ともに安定。	2025 年 8 月の全建築物の着工床面積は 735 万 m ² （前年同月比▲11.4%）。内訳として公共建築主 24 万 m ² （前年同月比▲35.1%）で 7 カ月連続の減少、民間建築主 711 万 m ² （同比▲10.3%）で 5 カ月連続の減少。 新設住宅着工戸数は 60,275 戸（前年同月比▲9.8%）、新設住宅着工床面積は 460.1 万 m ² （同比▲8.7%）、非住宅着工床面積は 234.4 万 m ² （同比▲13.4%）で 3 カ月連続の減少。 建築着工統計に基づく換算鉄骨需要量は 2025 年 8 月単月で 26.5 万 t と前年同月比▼6.4%の減少で 3 カ月連続の減少。 2025 年度第 2 四半期の鋼材需要量は 1,838 万 t の見通しで前年同期比▲4.2%の減少、2025 年度第 1 四半期比+1.1%と微増の見通し。
3. 輸出入動向	2025 年 8 月鋼管輸出量 継目無鋼管：2 万 7,627 トン（前月比+32%） 溶融接鋼管：1 万 3,997 トン（前月比▲19%） 2025 年 8 月鋼管輸入量 継目無鋼管： 1,150 トン（前月比 +2%） 溶融接鋼管： 10,747 トン（前月比 ▲4%）	2025 年 8 月の鉄鋼輸出実績（全鉄鋼ベース）は 246.5 万トン、前年同月比で 7.2%減と 5 カ月連続の減少。普通鋼鋼材輸出量は 174.2 万トン、前年同月比で 6.6%減と 5 カ月連続の減少。主要品種別では、熱延広幅帯鋼（95.9 万トン、同 6.6%減）が 4 カ月連続、厚板（20.6 万トン、同 15.7%減）が 2 カ月連続、亜鉛めっき鋼板（17.3 万トン、同 4.7%減）が 3 カ月ぶり、冷延広幅帯鋼（12.0 万トン、同 12.4%減）が 3 カ月連続の減少。2025 年 8 月の普通鋼鋼材輸入量は 35.9 万トン、前年同月比で 6.9%増と 8 カ月ぶりの増加。主要品種別では、熱延広幅帯鋼（10.6 万トン、同 17.2%増）が 5 カ月ぶり、亜鉛めっき鋼板（9.4 万トン、同 6.9%増）が 3 カ月ぶりの増加。一方、冷延広幅帯鋼（5.5 万トン、同 9.8%減）が 2 カ月ぶり、厚板（3.6 万トン、同 2.5%減）が 2 カ月ぶりの減少。AD 提訴について先行き不透明な為、輸入代理店は慎重に様子見に徹している。	・厚板輸入実績 25 年 8 月 3.5 万トン（前年同月比±0%） 韓国 3.0 万トン（同▲3.2%）、中国 3 千トン、台湾 2 千トン 国内需要の低迷を受けて低位継続。価格も下落傾向。 ・厚板輸出実績 25 年 8 月 20.6 万トン（前年同月比▲15.7%） 中国 3.9 万トン（同▲22.4%）、韓国 5.0 万トン（同+34.5%） 中国向けはじめ全体では低位継続も、韓国向けは前年比増で推移。今後も各国での通商措置や地政学リスクや為替変動に注視	【2025 年 8 月の輸出入実績】 輸出： 【形鋼】 43,823 t（前月比▲8.8%、前年同月比▲11.5%） 【棒鋼】 14,797 t（前月比▲28.6%、前年同月比▲3.8%） 輸入： 【形鋼】 16,200 t（前月比+16.0%、前年同月比+376.9%） 【棒鋼】 1,986 t（前月比+6.4%、前年同月比+72.8%）
4. 海外市場動向	原油価格 2025 年 9 月平均 WTI は 63.67 ドル/バレルと前月比▲0.6%。米中対立の先行き不透明感を背景に直近は 60 ドル/バレル前後で推移している。 米国リグカウント数は 547 基と低位で推移。（1987 年から 2025 年までの平均が 500 基で、2014 年 10 月の 1,609 基がピーク、1999 年 8 月の 98 基が最低記録）	日本の鉄鋼生産量、1～8 月の国内生産は前年から 4.5%減り、トランプ関税の効果で生産が伸びる米国が上回った。中国の安値輸出で国際市況が悪化し、増産しにくくなっている。通年で 26 年ぶりに日米の生産量が逆転すると、世界で 4 位に後退する。 世界鉄鋼協会まとめによると、1～8 月の日本の生産量は前年同期比 4.5%減の 5410 万トン。同 1.6%増の 5460 万トンだった米国をわずかに下回った。	【韓国】 ・厚板生産量 25 年 9 月 59.2 万トン（前年同月比▲20%強）ポスコ光陽製鉄所の 9 月の 20 日間の厚板工場の設備補修あり ・厚板輸出量 25 年 9 月 13.3 万トン（22 年 11 月以降最低）米国ならびに欧州向け大幅減 ・厚板輸入量 25 年 9 月 20.7 万トン（24 年 5 月以降最高）中国材、日本材の船級用が増加	米国の関税政策の不確実性が若干後退しているものの、関税率上昇による個人消費や企業収益の悪影響が懸念される。中国は不動産市場の改善が進まず、内需は消費の伸びに停滞感が続く中、鋼材輸出は引き続き高い水準が継続している。2025 年 9 月の世界粗鋼生産量は前年同月比▲1.6%の 1 億 4,180 万 t と減少。中国の減少が影響したもののだが、依然として高水準の粗鋼生産を維持している。中国の内需低迷により輸出増傾向に歯止めが掛からず、今後の国際需給への影響については引き続き動向を注視する必要がある。

鉄鋼流通問題懇談会（2025年10月）

発表者 発表項目	メーカー J F E スチール
1. 需給動向（景況感）	・9月の日銀短観では、企業の景況感を示す業況判断指数（DI）の大企業・製造業の指数が、前回（6月）調査比+1の+14と、若干良化した形となった。一方、先行きは▲2の+12と、若干の悪化を見込む方向になっている。 ・家計部門では、8月の小売業販売額が前年同月比▲1.1%と42ヵ月ぶりの減少。猛暑による電力コスト増等が家計を圧迫。 ・製造部門では、8月の四輪車生産が前年同月比▲0.1%と2ヵ月連続の減少。7月機械受注（民需）は前月比▲4.6%と2ヵ月ぶりの減。 ・建築部門では、8月の全建築物建築着工床面積が735万㎡（前年同月比▲11.4%）となり、7ヵ月連続の減。 （海外） 世界全体として、各種関税措置や地政学リスクの高まりに伴う政策不確実性が企業の投資・貿易活動の重しとなっている。 米国：関税引き上げによる悪影響は当初懸念より限定的でAI・ハイテク分野中心に内需は底強いが、労働市場に弱含みの兆候が 出始めており、関税影響によるインフレ懸念などと相まって、今後の景気下振れリスクが残存。 欧州：貿易摩擦による成長率の下押しあるも、軍事・インフラ財政支出の拡大、金利の引き下げが経済を下支え。 中国：引き続き、不動産部門の不振長期化が成長を下押し、内需は力強さを欠く状況が続く。米国による関税本格化と世界需要の 減速も懸念事項。政府は必要に応じて経済対策の強度を増すと見込まれるものの、不動産部門等の回復は時間を要す見込み。 ＜国内鉄鋼需給＞ （生産） ・8月の粗鋼生産（速報）は663万tと前年同月比で5ヵ月連続の減。 （出荷） ・8月の普通鋼国内向け出荷（速報）は244万トンと前年同月比で7ヵ月ぶりの増。輸出向け出荷は185万トンと6ヵ月ぶりの増。 （在庫） ・8月末の普通鋼鋼材国内向け在庫（速報）は511万トン（前月末比+18.7万ト）で2ヵ月ぶりの増。 ・8月末の薄板3品在庫は406万トン（前年同月比▲4万トン）で2ヵ月ぶりの増。 ・8月末の厚板シャ－在庫は35万トン（前年同月比▲4万トン）で3ヵ月連続の減。
2. 需要産業動向	〔建 築〕 ・8月の新設住宅着工戸数は6.0万戸（前年同月比▲9.8%）で5ヵ月連続の減。持家は、貸家・分譲いずれも減。 ・8月の非住宅着工床面積は258万㎡（前年同月比▲15.6%）で3ヵ月連続の減。使途別では、店舗・工場・倉庫いずれも減。 〔自動車〕 ・9月の国内販売（輸入車除く）は38.8万台（前年同月比▲4.4%）で3ヵ月連続の減。 ・8月の完成車輸出は29.8万台（前年同月比+1.3%）で2ヵ月ぶりの増。 ・8月の四輪車生産は53.4万台（前年同月比▲0.1%）で2ヵ月連続の減。 〔造 船〕 ・8月の造船受注量は37.2万GT（前年同月比▲16.5%）。手持工事量は2,946万GT（前月末比▲1.2%）で2ヵ月連続の減。
3. 輸出入動向	〔輸 出〕 ・8月の全鉄鋼輸出は247万トン（前年同月比▲7.2%）で5ヵ月連続の減。向先別では、中国向け増、韓・ASEAN向け減。 〔輸 入〕 ・8月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は40万トン（前年同月比+5.9%）で7ヵ月ぶりの増。
4. 海外市場動向	・8月の世界粗鋼生産（推計含む）は1億4,529万トン（前年同月比+3.8%）で2ヵ月ぶりの増。 ・9月の中国粗鋼生産（速報）は7,349万トン（前年同月比▲4.6%）で4ヵ月連続の減。 ・9月の中国鋼材輸出（速報）は1,047万トン（前年同月比+3.1%）で2ヵ月ぶりの増。 ・中国市中在庫は、10月17日時点で1,125万ト（前年同期比+28.5%）。春節明けの在庫ピーク減少傾向だったが、8月より再度増加傾向。